

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	八戸工業大学
設置者名	学校法人八戸工業大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
工学部	機械工学科	夜・通信	10	10	0	20	13	
	機械工学科 (自動車工学コース)	夜・通信			14	34	13	
	電気電子工学科	夜・通信			26	46	13	
	システム情報工学科	夜・通信			8	28	13	
	生命環境科学科	夜・通信			22	42	13	
	土木建築工学科	夜・通信			6	26	13	
	工学科	夜・通信			67	87	13	
感性デザイン学部	感性デザイン学科	夜・通信			80	90	13	
(備考) ・「機械工学科(自動車工学コース含む)、電気電子工学科、システム情報工学科、生命環境科学科、土木建築工学科はR4.4.1募集停止 ・「工学科」はR4.4.1設置 ・「感性デザイン学科」はR4.4.1名称変更(旧名称:創生デザイン学科)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学HP掲載(修学支援関連公開ページ) URL: <a href="https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei">https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	八戸工業大学
設置者名	学校法人八戸工業大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HP 掲載（修学支援関連公開ページ） URL： <a href="https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei">https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei</a>
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員（副会長）	2022.9.16～ 2025.9.15	経営計画総括
非常勤	特別職地方公務員	2022.9.16～ 2025.9.15	募集・広報
(備考) 他1名非常勤理事（全11人中）			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	八戸工業大学
設置者名	学校法人八戸工業大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)                  授業計画(シラバス)には、次の内容を記載している。                  ①科目名、②科目の英語名称、③開講期、④対象学年、⑤単位数、⑥必修/選択区分、⑦担当教員、⑧八戸工業大学ディプロマ・ポリシーと当該授業科目との関連、⑨授業の要素、⑩授業の到達目標、⑪授業の概要、⑫学習・教育到達目標との関連・時間、⑬授業計画、⑭授業時間外学習の内容(予習・復習等)、⑮課題に対するフィードバック方法、⑯教科書、⑰参考書・参考資料、⑱成績評価の基準・方法、⑲成績評価種別、⑳実務経験を有する教員による授業科目か否かの表示、㉑実務経験を踏まえた授業の内容、㉒その他(注意事項等)、㉓ナンバリング、㉔研究室・連絡先、㉕オフィスアワー。                  シラバスは、毎年、教務委員会で協議されたガイドラインに従って、各科目の担当教員によって3月に作成される。その後、各部局において、シラバスの内容がガイドラインに沿っていることを確認するために、「シラバス第三者チェック」を実施し、部局長が「シラバスチェック確認書」を学務部長に提出するなどして、その内容の充実に努めている。このシラバスはWeb上で毎年4月1日に公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	HP掲載(修学支援関連公開ページ) URL: <a href="https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei">https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)                  各科目のシラバスに記述した「成績評価の基準・方法」に基づき、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を認定している。八戸工業大学履修規程に基づき、評価の点数に応じてS、A、B、C、Dの評価を行い、GPA値が計算される。Dは不合格である。                  試験を実施しない、レポートを課さない科目においては、ルーブリック評価を実施することを基本としており、授業科目の学修成果は厳格かつ適正に評価するよう努めている。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学は、成績評価において客観的な指標としてGPAを用いている。その扱いについては、「八戸工業大学GPA取り扱い要項」(教務委員会制定)に定めている。GPA対象科目について、「学期GPA」、「年度GPA」、「累積GPA」に区分し、それぞれの定める方法により計算し、成績評価指標として用いている。これらについては公開している。</p> <p>GPAの計算式</p> $\text{学期 GPA} = \frac{\text{当該学期における (修得した科目の単位数} \times \text{GP) の計}}{\text{当該学期における評価を受けた科目の単位数の計}}$ $\text{年度 GPA} = \frac{\text{当該年度における (修得した科目の単位数} \times \text{GP) の計}}{\text{当該年度における評価を受けた科目の単位数の計}}$ $\text{累積 GPA} = \frac{\text{入学以降に (修得した科目の単位数} \times \text{GP) の計}}{\text{入学以降に評価を受けた科目の単位数の計}}$ <p>※GP : S=4、A=3、B=2、C=1、D=0</p> <p>成績の分布状況については、種々分析し把握することに努めている。例として、4年間留年なく卒業した学生の卒業時GPAの分布、並びに在籍学生の成績評価分布についてはWeb上で公開している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>HP掲載 (修学支援関連公開ページ) URL : <a href="https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei">https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei</a></p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学は、建学の精神「正己以格物」(己を正し以て物に格る)、教育理念「良き技術は良き人格から生まれる」、および使命・目的に基づき、それらを具現化する卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー:DP)を定めている。これらはWeb上で公開しているほか、大学要覧、学生要覧など、多くの印刷物を通じて公表している。このDPは、学部、学科単位でも定めており、いずれも公開している。シラバスの中に、八戸工業大学DPと授業科目との関連を明示している他に、各学科の学習・到達目標(学科DP)と科目の関係を表すカリキュラム・ツリーや、カリキュラム・マップを明示し、学習・到達目標をクリアするための科目履修の流れや各科目の位置づけを明確にしている。その科目合格の積み重ねにより、DPに掲げた目標をクリアし、卒業認定方針に基づいた卒業認定を適切に実施している。</p> <p>なお、卒業の判定は対象となる学生の取得単位数、各種条件の充足について教務委員会で確認しており、教務委員会での判定結果を受けて教授会で卒業認定している。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>HP掲載 (修学支援関連公開ページ) URL : <a href="https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei">https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei</a></p>



(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
教育研究上の目的 (公表方法:HP 掲載(修学支援関連公開ページ)URL: <a href="https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei">https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei</a> )
(概要) 本学は、「良き技術は、良き人格から生まれる」を教育理念とし、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、あわせて人類の幸福を希求する科学技術の振興と文化の創造並びに地域社会の発展に寄与することを目的とする。  工学部：豊かな人間性と総合的な判断力をもった人材、社会の変化に対応できる柔軟な思考力をもった人材、工学の基礎原理を踏まえ高度な応用展開能力をもった人材、及び地域社会への関心とともにグローバルな視野をもった人材を育成するとともに、機械、電気・電子・通信、建築・土木、情報、生命・環境、原子力、ロボット及び海洋などの工学・科学に関する教育研究の実施と成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること  感性デザイン学部：豊かな人間性と総合的な判断力をもった人材、社会の変化に対応できる柔軟な思考力をもった人材、デザイン学の諸原理を踏まえ高度な応用展開力をもった人材、現代社会が抱える問題を発見し、その解決に貢献できる人材、及び地域社会への関心を有するとともに、多文化・異文化を理解し、幸福な社会づくりに貢献できる人材を育成するとともに、デザイン学及びその関連分野に関する教育研究の実施と成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法:HP 掲載(修学支援関連公開ページ)URL: <a href="https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei">https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei</a> )
(概要) 八戸工業大学は、「良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念を掲げています。これは、「良き職業人となるためには、高度な専門知識とともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ」ことが必要であることを意味しています。本学は、この理念を踏まえた教育目標に基づく所定の教育課程を修め、以下の資質・能力が身についた学生に学士の学位を授与します。 <ol style="list-style-type: none"><li>1. 豊かな人間性と総合的な判断力</li><li>2. 社会の変化に対応できる柔軟な思考力</li><li>3. 専門分野の基礎原理の理解と高度応用展開力</li><li>4. 地域社会への関心をもちグローバルな視野で物事を考える姿勢</li></ol>
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法:HP 掲載(修学支援関連公開ページ)URL: <a href="https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei">https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei</a> )
(概要) 本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。 <ol style="list-style-type: none"><li>1. 教育課程の骨格 カリキュラムを、高校教育から大学教育に円滑に移行させ、キャリアデザインを支援するための「キャリア教育科目」、人間環境や社会に対して多面的な視野から物事を捉え総合的な判断ができる力を養う「総合教養科目」、AI 技術やデータサイエンス能力を養う「AI・データサイエンス科目」、地域社会と科学技術についての包括的な理解、ならびに工学とデザインの分野を融合した学びを誘導する「共創教育科目」、工学の学問に必要な自然科学分野の基礎を幅広く養う「工学基礎科目」(工学部のみ)、各分野における専門基礎原</li></ol>

理、実践的な応用能力を養う「専門科目」、地域産業の特色を反映した発展的な知識・技術を養う「工学発展科目（工学部のみ）」、高度な応用・展開能力を養う「特別専攻科目」で編成します。

## 2. 総合的な人間力を養成する教育の実施

「キャリア教育科目」においては、高大接続・社会接続を担う教育を実施します。また「総合教養科目」においては、その分野を人間科学分野、国際コミュニケーション分野、体育科学分野および総合学際分野で構成し、学部・学科を問わないリベラルアーツを展開します。これにより、豊かな人間性を涵養し、柔軟な思考力や幅広い視野に立った理解力を養成します。「共創教育科目」および「専門科目」においても、課題解決型学習（PBL）、アクティブ・ラーニングなどの授業を展開し、豊かな人間性と総合的な判断力、主体性ならびに社会の変化に対応できる柔軟な思考力を養成します。

## 3. 高度な情報活用能力を育成する教育の実施

超スマート社会に対応するための情報リテラシーと AI 技術・データサイエンスの基礎を学ぶ科目を全学共通として配置します。工学およびデザインの専門分野においては情報技術を高度に利活用するための力を養成します。

## 4. 地域社会との繋がりを重視した共創教育の実施

社会が抱える課題の解決のために、地域への理解を深めるとともに、学部・学科の専門分野の地域的・社会的な役割およびデザインの基礎について学ぶための科目を配置します。また「共創教育科目」における工学とデザインを融合した学修、さらに専門科目においても地域と連携した PBL、アクティブ・ラーニング教育を展開します。これにより、持続可能な地域社会づくりへの関心と責任をもって物事を考えることができる能力を養成します。

## 5. 専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育の実施

学部・学科の専門基礎原理を学ぶ科目を学期ごとに体系的に学べるように編成します。専門基礎と演習を組み合わせた授業、専門基礎原理の繰り返し学習を取り入れた授業などを展開し、これにより専門分野の基礎原理を理解・修得させる教育を実施します。

## 6. 専門分野の基礎原理を実践的に応用展開できる力を養成する教育の実施

実践的な力を養うために、少人数ゼミナール、実験・演習・実習科目を重点的に配置します。自ら考えて纏めたことを発表・表現する授業や、体験・気づき・省察サイクルを取り入れた授業を展開します。また身につけた専門知識やスキルを統合し、論理的な課題解決を通じて新たな価値の創造に繋げていく能力や姿勢を育成するために、「卒業研究」を全学必修とします。また、これらの科目群によりチームワーク力やリーダーシップ力も養成します。

## 7. グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成する教育の実施

学部・科を問わない「総合教養科目」を中心に、「専門科目」においてもそれぞれの分野においてグローバルな視点での授業を展開します。これにより、異文化と多様性を理解しつつ、グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成します。

学修成果の達成度は、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力に基づいて具現化した複数の修得因子によって評価し、学生が自ら確認できるよう配慮します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：HP 掲載（修学支援関連公開ページ） URL：  
<https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei>）

(概要)

八戸工業大学は、建学の精神である「正己以格物」（己を正し以て物に格る）に基づいた自己思考能力を育むカリキュラムにより、基礎知識や専門知識だけにとどまらず、将来的に地域を牽引していくことができる総合力を備えた次世代のリーダーにふさわしい人材を養成しています。また、「良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念を掲げており、高度な専門知識を備え高度な応用展開力をもつとともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ社会の担い手の育成を目指しています。

これらを実現するため、高等学校で履修する教科・科目について基礎的な知識・技術を有しており、本学が進める教育研究活動に強い関心があり、さらに自らを向上させようとする意欲を持つ人を、多様な選抜制度により受け入れます。

本学の入学者選抜では、志願者の学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）を把握し、各学科の教育・人材育成の目的にかなう能力・資質・意欲・適性などを判断するため、入試形態ごとに個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、小論文、面接などを組み合わせて志願者の能力や資質を多面的・総合的に評価します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法:HP 掲載(修学支援関連公開ページ)URL:<https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
工学部	—	35人	10人	3人	2人	0人	52人
感性デザイン学部	—	8人	3人	2人	0人	0人	13人
地域産業総合研究所	—	2人	人	人	人	人	2人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		67人				67人	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法:					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
学長を委員長とした教育改革委員会を定期的開催し、教育課程の編成、教育内容、教育改革、FDに関するについて協議・検討を行っている。年に数回、全教職員を対象とした研修会や講演会を開催している。							



④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	250人	149人	59.6%	1,000人	759人	75.9%	-人	1人
感性デザイン学部	50人	36人	72.0%	200人	152人	76.0%	-人	0人
合計	300人	185人	61.6%	1,200人	911人	75.9%	-人	1人
(備考) R6.5.1 現在								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	226人 (88.3%)	10人 (4.4%)	208人 (92%)	8人 (3.6%)
感性デザイン学部	30人 (11.7%)	0人 (0%)	27人 (90%)	3人 (10%)
合計	256人 (100%)	10人 (3.9%)	235人 (91.8%)	11人 (4.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
HP 掲載 (修学支援関連公開ページ) URL : <a href="https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei">https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei</a>				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業計画（シラバス）には、次の内容を記載している。</p> <p>①科目名、②科目の英語名称、③開講期、④対象学年、⑤単位数、⑥必修/選択区分、⑦担当教員、⑧八戸工業大学ディプロマ・ポリシーと当該授業科目との関連、⑨授業の要素、⑩授業の到達目標、⑪授業の概要、⑫学習・教育到達目標との関連・時間、⑬授業計画、⑭授業時間外学習の内容（予習・復習等）、⑮課題に対するフィードバック方法、⑯教科書、⑰参考書・参考資料、⑱成績評価の基準・方法、⑲成績評価種別、⑳実務経験を有する教員による授業科目か否かの表示、㉑実務経験を踏まえた授業の内容、㉒その他(注意事項等)、㉓ナンバリング、㉔研究室・連絡先、㉕オフィスアワー。</p> <p>シラバスは、毎年、教務委員会で協議されたガイドラインに従って、各科目の担当教員によって3月に作成される。その後、各部局において、シラバスの内容がガイドラインに沿っていることを確認するために、「シラバス第三者チェック」を実施し、部局長が「シラバスチェック確認書」を学務部長に提出するなどして、その内容の充実に努めている。このシラバスはWeb上で毎年4月1日に公開している。</p>
---

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学は、建学の精神「正己以格物」（己を正し以て物に格る）、教育理念「良き技術は良き人格から生まれる」、および使命・目的に基づき、それらを具現化する卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー：DP）を定めている。これらはWeb上で公開しているほか、大学要覧、学生要覧など、多くの印刷物を通じて公表している。このDPは、学部、学科単位でも定めており、いずれも公開している。シラバスの中に、八戸工業大学DPと授業科目との関連を明示している他に、各学科の学習・到達目標（学科DP）と科目の関係を表すカリキュラム・ツリーや、カリキュラム・マップを明示し、学習・到達目標をクリアするための科目履修の流れや各科目の位置づけを明確にしている。その科目合格の積み重ねにより、DPに掲げた目標をクリアし、卒業認定方針に基づいた卒業認定を適切に実施している。</p> <p>なお、卒業の判定は対象となる学生の取得単位数、各種条件の充足について教務委員会で確認しており、教務委員会での判定結果を受けて教授会で卒業認定している。</p>
---

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	機械工学科	124 単位	有・無	年間 40 単位
	電気電子工学科	124 単位	有・無	年間 40 単位
	システム情報工学科	124 単位	有・無	年間 40 単位
	生命環境科学科	124 単位	有・無	年間 40 単位
	土木建築工学科	124 単位	有・無	年間 40 単位
	工学科	124 単位	有・無	年間 44 単位
感性デザイン学部	感性デザイン学科	124 単位	有・無	年間 44 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：HP 掲載（修学支援関連公開ページ）</p> <p>URL：<a href="https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei">https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei</a></p>
---

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
工学部	機械工学科	942,000 円	250,000 円	※1 年次 330,000 円	R4. 4. 1 募集停止
	電気電子工学科				R4. 4. 1 募集停止
	システム情報工学科			※2 年次以降 365,000 円	R4. 4. 1 募集停止
	生命環境科学科				R4. 4. 1 募集停止
	土木建築工学科				R4. 4. 1 募集停止
工学科	R4. 4. 1 設置				
感性デザイン学部	感性デザイン学科	650,000 円	250,000 円	※1 年次 200,000 円 ※2 年次以降 235,000 円	R4. 4. 1 学科名称変更

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学生の修学に係る支援として、リメディアル科目(正課外)、学修支援室、などの取り組みがあります。</p> <p>リメディアル科目は、大学教育に必要な学力を身に付けるため、1学年に開講しており、数学と物理学の科目があります。入学後の開講試験結果により、対象者に受講を推奨しています。</p> <p>学修支援室は、教員への学修の質問や大学生生活全般の相談、自習室・談話室として利用できるスペースとなっています。相談員が在室しているほか、夕方には4学年の学生が学修支援室相談補助員として待機し、学修の仕方・大学生生活の相談内容等に応じています。</p> <p>また、この他に修学支援担任制度があり、各学科・学年ごとに修学支援担任・副担任が配置され、履修計画の作成を始めとする修学上の支援も行っています。</p> <p>さらに、特別サポートPT(プロジェクトチーム)では、退学等につながる可能性の高い要支援学生を早期に発見するため、学修状況・出席状況等々の各種情報を学科・コースと共有して、個別支援を行っています。個別支援の内容としては、個別面談の他、学力に課題を抱える学生を対象に数学の基礎を学ぶ特別補習を実施、学力面のサポートにも取り組んでいます。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>本学では、「キャリアデザインⅠ～Ⅲ」という科目をカリキュラムに設け、入学時から段階的に社会人基礎力を身に付けるためのプログラムを配置し、キャリアサポートを行っています。</p> <p>キャリアデザインでは、職業観、職業理解、OBOG講演、就職活動スケジュールや就職環境・採用情報など様々な情報提供のほか、自己分析、企業研究、履歴書・エントリーシート作成、面接対策などの就職活動準備講座・対策講座を実施しており、特に学部3年からは学科教員と就職担当職員が連携して就職支援を行います。また、本学内で開催する合同企業説明会、個別企業説明会、各種セミナーなど多様な就職支援行事も準備しています。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>本学では、学生生活を送っていく中で突き当たる様々な悩みについて、学生支援センター、学修支援室、保健室で相談を受け付け、学生をサポートしている体制となっています。</p> <p>学生支援センターは、学生生活に困難を感じている学生(障がいのある学生、学生生活にたまずきを感じている学生)の相談窓口となり、全学的な立場から関係部局間の連携を図るとともに、他の学生と等しい条件の下で学生生活を送れるよう、講義保証を中心に具体的方</p>

策を検討、および実施することを目的とする組織です。

学生支援センターには、学生相談室が置かれており、臨床心理士や精神保健福祉士などの専門家によるカウンセリングを受けることもできます。

学修支援室では、上述の a. の通り、教職員や学修支援室相談補助員（学生）が学生生活や勉強などの相談を受け付けます。

保健室は、教育・学生支援部に設置しており、学校保健安全法に基づいて毎年 4～5 月に定期健康診断を実施し、身体の不調や不慮の怪我等に対応しています。

#### ⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：HP 掲載（修学支援関連公開ページ）

URL：<https://www.hi-tech.ac.jp/kakuninshinsei>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F102310100630
学校名 (〇〇大学 等)	八戸工業大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人八戸工業大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		187人	177人	191人
内 訳	第Ⅰ区分	114人	102人	
	第Ⅱ区分	48人	51人	
	第Ⅲ区分	25人	24人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				—
合計 (年間)				191人
(備考) 家計急変による支援対象者 (年間) の人数は、家計急変による支援区分変更のため、支援対象者 (家計急変による者を除く) と重複するため、合計 (年間) の人数に増減はない。				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令 (令和元年政令第49号) 第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	—	人	人
「警告」の区分に連続して該当	—	人	人
計	12人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	—
(備考) 年間計には、適格認定における学業成績の判定の結果、2回連続で「警告」となった場合のうち、2回目の「警告」がGPA等が学部等における下位4分の1の範囲に属したことにより「停止」となった者を含む。	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	—	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	—	人	人
計	14人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。